

令和元年度 多摩市立図書館利用者懇談会

日 時： 令和元年 11 月 30 日（土）午後 5 時 15 分から 6 時 45 分まで

場 所： 永山図書館

出席者： （利用者） 1 名

（図書館） 図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査、
永山図書館長、永山図書館職員、企画運営担当職員

○ 前半 障がい者サービス室及び機器の案内

30 分程度、永山図書館の障がい者サービスに関わる展示コーナーや、障がい者サービス室を案内しながら説明し、機器についての使い方について職員が画面を操作しながら説明した。

○ 後半 懇談会

資料「多摩市の図書館（概要版）」を用い、図書館事業の実績を説明した。

また、日頃の図書館サービス・図書館運営について意見をいただいた。

図書館事業実績について

図書館： 実績についてだが、多摩市では貸出が多く、10～15 万未満の人口規模の自治体では第 3 位、予約数は第 2 位である。平成 30 年に開始した FeliCa（フェリカ）の登録件数も徐々に増え、パスワードについては市内在住で登録されている利用者の半分近くの方が登録している。

利用者： パスワードを登録しているということは、予約ができるということか？

図書館： 予約ができる。予約ができない京王線沿線 7 市連携で登録している利用者も、自宅のパソコン等で自分が借りた資料の貸出延長ができる。平成 30 年度のシステム更新で読書記録や、お気に入り資料登録等のマイページの機能が増えたので、そういった機能を十分に使いたい方はパスワード登録が必要である。メールアドレスを登録すると、予約資料が用意できた時の連絡がメールになる。

本日は、障がい者サービスについて案内したので所蔵資料についても紹介すると、「テープ図書」というのはカセットテープに音訳して録音したものである。1,789 点所蔵しているが、利用されることはほとんどない。テープはデイジー図書（※1）のようにページで飛んだりできず、聞き直ししたくても巻き戻しすぎたりする不便さがあるので、一度デイジー図書を利用した方はデイジー図書を利用し続けることが多い。

（※1）デイジー図書とは

・デイジー（DAISY）とは、Digital Accessible Information System の略で、視覚障害などで活字の読みが困難な人のために製作されるデジタル図書の国際標準規格です。

・1999年から貸し出しが始められたデイジー図書は、CD1枚におよそ60時間もの録音ができることや、章や見出し、ページごとに聞きたい場所へ移動することが出来るといった優れた機能を持っています。

(社会福祉法人 日本点字図書館ホームページより)

利用者： それでは、新規でテープ図書を作成したりはしないのか？

図書館： 基本的にはしていない。「声のやまばと通信」だけは、カセットテープしか持っていない人のために作成している。これは、パソコンで録音したものをテープに落として作成し、送付している。最初からカセットテープに録音しているのではない。作成しているのは、ほとんどデイジー図書だけで、こちらは319点所蔵している。所蔵している379点のマルチメディアデイジー(※2)は寄贈でもらっている。383点の点字付き資料は、既に点字がついた状態で市販されている本の他、図書館でおすすめの絵本に後から点字を貼って作成している本もある。視覚障がいのお子さんの他、視覚障がいの母親が絵本を読み聞かせたい時に、点字付きの本だと読み聞かせができるので、そのような要望もあって作成を始めた。

(※2) マルチメディアデイジーとは

- ・音声と一緒に、文字や画像が表示されるデジタル図書です。
- ・表記された文書を音声で聞きながら、画面上で絵や写真を見ることができます。
- ・読み上げているフレーズの色が変わる(ハイライト機能)ので、どこを読んでいるのかが一目でわかります。
- ・自分が読みやすいように、文字の大きさ、音声のスピード、文字や背景の色を選ぶことができます。

(公益財団法人 伊藤忠記念財団ホームページより)

デイジー図書は319点所蔵している。「多摩市の図書館(概要版)」には貸出の実績は載せていないが、障がい者サービスの予約のリクエストは平成30年度で2,337件あり、他自治体の図書館が作成したデイジー図書や点字図書も提供している。点字図書などは1冊作成するのに早くても3ヶ月かかり、年間を通してたくさん作成することは難しいが、障がい者サービスは全国規模での協力体制が整っているため、多摩市以外の図書館から借用して提供することがほとんどである。公共図書館以外でも、点字図書館から借用して提供することもできる。多摩市で作成したデイジー図書は国立国会図書館にデータを登録しているので、そのデータを自分のパソコン等でダウンロードして使用された利用数を「多摩市の図書館(概要版)」に利用数として載せている(国立国会図書館視覚障害者等用データベース利用状況)。毎年1,700件程度利用される。郵送等で資料を送るといったような、資料の利用に多摩市が介在する必要がなく、物理的な制約がないためとてもよく活用されている。国立国会図書館に登録されている方以外に、日本点字図書館が運営しているサピエ図書館というサイトの会員も、録音図書や点字図書のデータを利

用できる。

「多摩市の図書館（概要版）」の裏面（2枚目）には、児童サービスについての実績や、大人向けのイベントの実績について載せている。最近はパルテノン多摩との連携も意識しているので、平成30年度は『調布玉川惣画図』をパルテノン多摩の学芸員に解説してもらおうという講演会を行った。他には、音訳者の養成講座、研修、保護者向けの読み聞かせ講座等を行っている。

その他、各課連携企画展示に力を入れている。市役所の様々な課が、市民に知ってもらいたい内容やテーマを図書館の本と一緒に展示することで、より広く市民に周知できる機会になると考えられ、他課からの申し出が増えている。平成30年度では18課24テーマの展示を行った。展示は、一つの館だけで行うこともあれば、全館で巡回させる場合や、一斉に行う場合がある。例えば、「食育」に関する展示では、全館で一斉に行っている。展示することで本が借りられる。

- 利用者： 企画展示を行って反響はあるか？
- 図書館： 企画展示をすることで、本が借りられる実績につながっている。
- 図書館： おおよそ1ヵ月間展示をしており、展示終了後に展示した本の貸出回数を調べている。1ヵ月間なので、1冊の本が借りられるのは2回～3回程度だが、書棚に置いていても借りられない本を、テーマで集めて展示することで手に取ってもらえる。地域資料は出版年が古い本だったり、テーマが限られているのもあり、手に取ってもらえる機会があまりないが、同じく展示することで読んでもらえ、本の貸出につながると思っている。近隣の図書館も見て回っているが、他の自治体と比べて多摩市の図書館は企画展示が多い。職員が選書の力をつけるためにも有意義だと考えている。
- 利用者： 大きな企画展示のテーマは、年間で決めてあって、本館の企画運営担当が行っているのか？
- 図書館： まず、各課連携企画展示については、企画運営担当で他の課にいつ展示を行いたいかなどの希望の聞き取りをし、各館へ相談しつつ、どの展示をどの館で行うかを決定する。例えば、児童虐待防止月間の展示は本館と、児童館が併設されている図書館で行った。各課連携企画展示を行わず空いた期間については、各館が自分たちでテーマを決定する。年度末くらいには、次年度の企画展示のテーマを決定する。
- 利用者： それでは、企画展示のリストはその館の職員が作っているのか？
- 図書館： 各課連携企画展示についても、自分たちでテーマを決めた企画展示についても、受け持った館がリストを作っている。他の課との調整や取りまとめ、各館への割振りを企画運営担当が行っている。
- 利用者： 私は企画展示のリストをよく見るが、展示されている本が借りられているのがわかる。テーマによってはとてもよく借りられている時もあり、展示は効果的であると思える。企画展示に力を入れてほしい。

- 図書館： 展示に合わせて、ブックリストも作成している。今年はあまり作成できなかったが、来年度は各館で企画展示を行った際に、展示した本からピックアップしたブックリストを作成し、本と一緒に置いておくと、本そのものが借りられてなくなった時でも、どのような本が展示されているのかわかるので作成したい。
- 図書館： 児童虐待に関する展示では、市役所でも展示を行っており、図書館が作成したブックリストも置いている。
- 利用者： パスファインダーではなくてブックリストなのですね。
- 図書館： パスファインダーは、展示に合わせて作成している。また、過去に作ったパスファインダーを更新して作成もしている。
- 利用者： 今は異常気象が多く、消費生活センターで開催されたフォーラムでトークイベントが実施されたりしたので、図書館でも異常気象や気候変動についての催しか何かを行ってほしいと思う。11月28日に永山図書館で行われたオンラインデータベースの講座は、実施してほしいと思っていたものを開催してもらえたので、とても嬉しかった。法律情報を調べることができる「TKC ローライブラリー」については、賠償責任や訴訟について、身近な生活の中で気になったときに、過去の判例を調べることができるので便利だと思った。自分が訴訟に関わることにならないと、普段はこのデータベースを使おうとは思わないかもしれない。「こういう時に使えるよ」という事例を示したりする等、どのようにしたら人の関心にマッチするだろうかと思う。
- 新聞情報を調べることができる「日経テレコン21」については、「このデータベースの新聞記事で世間のことを知るための辞書になる」といったようなことが講座の中で言われていて、とても面白かった。自分がビジネスを行っていなくても、キーワードを入れていくことでちょっとした調べ物ができるので便利だと思った。
- 図書館： もともと有料のデータベースなので、それなりの情報を調べることができる。個人では使えないが、図書館だから提供できるというところをもっとPRしたい。周知の仕方がわかりづらいのかもしれない。
- 利用者： なんでもないことでも調べられるという例を作ってみるといいと思う。

読書会・イベントの企画について

- 利用者： 別件だが、図書館主催で読書会を開催するのもいいかもしれない。
- 図書館： 前回（11月16日）の唐木田図書館での利用者懇談会でも、読書会を行っている利用者から、図書館と一緒に読書会がしたいと申し出があった。
- 利用者： 自分も読書会に何回か参加したことがある。参加者がいろんな本をリストにあげていくので、読んでみようと思える本に出会えて参考になる。
- 図書館： 図書館では、複本が足りなくて読書会を行うのが難しいというのがある。

- 利用者： 自分が参加した読書会では、各々が本を読んできて集まるので、その場では読んでいなかった。特定の1冊の本についての話をいろいろするのではなく、あるテーマについての参考図書がリストにされていて、各自その参考図書を読んできて、テーマについて話し合いたい、という形の読書会だった。
- 図書館： もしそのような形で読書会が成立しているなら、図書館と一緒に開催しなくてもいいかなと思う。その読書会の方を誘って、多摩市立図書館として別の読書会を企画するというのは良いかもしれない。
- 図書館： 図書館で読書会を企画したことはないが、市民が団体登録をしている読書会のグループはある。ただ、団体貸出で読書会のために複本を何冊も希望されると用意できない場合がある。
- 利用者： 最近、学校図書館が舞台の小説を読み、その小説では生徒主体の読書会について描かれていた。リテラチャー・サークル方式という形の読書会で、質問する人・イメージを絵に描く人等役割分担があり、最終的には本の紹介ポスターが完成するというものだった。読書会は、いろいろな形があると思う。イベントについては、新しい人を図書館に呼び込むには面白くないといけなないので、謎解きやクイズ等で調べ物をしてみたり、謎を解いていくと他の本にたどりつくという形をしてもいいし、面白いことを考えられたらいいと思っている。新しい本館ができるので、市民が「行こう」と思えるいいイメージの図書館になると良い。
- 図書館： 新本館については、今は図書館の建物や運営について考えているところだが、市民からいただいたアイデアに基づき、市民と一緒に企画やイベントができるような取り組みがしたい。図書館は様々な業務を行っているので、あれもこれもはできないが、年に一度くらいは新しいことを企画できたらいいと考えている。
- 利用者： 企画については、市民が主導でも良いと思う。市民からいろんなアイデアをもらってもいいが、それを具体的にイベントにできるか見極めをしたり、イベントの形にしていける中核のメンバーの市民もできると良い。パルテノン多摩で市民運営を考えていて養成講座をしているが、私たち市民が予算を考えながらイベントをサポートしていけるような形にしていけると良い。
- 図書館： 少し先になるが、図書館でもイベントボランティア養成講座的なことを実施していきたいと考えている。墨田区立ひきふね図書館のように、実績がある他の自治体の図書館のノウハウも参考にし、市民も一緒に企画について考えてもらえるようにしたい。
- 利用者： ひきふね図書館も、最初は養成講座で集まった人でできていると聞いているので、そういう風に体制を整えていかないといけないと思うが、今日みたいに利用者懇談会に市民が一人しか参加しないというような状況だと厳しいと思う。永山図書館ではきちんと本が読める環境が整っているので、市民からは特に意見はないのかもしれない。私も不満はない。

図書館ホームページ・利用者端末等について

- 図書館： 図書館ホームページの使い勝手はどうか？
- 利用者： 私は「お気に入り登録」をするのが面倒で書いてしまう。「お気に入り登録」や「読書記録」は溜まっていく一方なので、うまく使いこなせていないと感じる。
- 図書館： 資料検索についてはどうか？ジャンル検索等、検索するメニューを増やしたが、何を利用することが多いか？
- 利用者： 作品の情報から、その著者の作品の一覧に飛ぶ機能をよく利用する。「この人は、他にどのような本を書いているんだろう」と思って調べることが多い。
- 図書館： 最近の傾向としては、パソコン等を完全に使いこなせる高齢者と、苦手意識を持っている高齢者が二極化されている。今までは検索機を利用していても、検索機の機種が変わったことで使い方が分からなくなり、窓口にリクエストを申し込むようになった方もいる。
- 図書館： 以前の検索機より検索しづらくなったり、画面が見づらくなったりということはあるか？
- 利用者： 検索しやすくなったと思うし、資料の一覧で在庫があるかどうか分かりやすいので、私にとっては使いやすくなった。
- 図書館： 昨年度は図書館システムが更新した後、図書館ホームページや検索機の使い方が分かりづらいと毎週のように問い合わせがあったが、今年度に入ると問い合わせはほとんどなくなった。使い方に慣れればそれほど問題はないのかもしれない。
- 利用者： 今まで使っていたシステムから脱出するのが難しいのかもしれない。その為、前のシステムの方が良かったという気持ちが残るのも分かる。
- また、図書館ホームページの企画展示一覧で、すべての図書館の分が出てこないことがあるのは、展示の入れ替えをしているタイミングだからか？あと、「話題のキーワード」は誰が決めているのか？
- 図書館： 企画展示については、入れ替えをしているとホームページに表示されないことがある。「話題のキーワード」を作っているのは、担当の職員である。そのキーワードを選んだ理由を担当に確認することもある。

企画展示について

- 利用者： 有名な方が亡くなったとき、その人の本を借りることがある。亡くなった方の本の展示やリストがあると良い。
- 図書館： 本館ではそのような展示をまめに行っているが、イレギュラーな展示のため、図書館ホームページに反映しない形でフロアの一角で行っている。ちょっとした展示も職員にはどんどん行ってほしいので、すぐに準備ができる方法で展示して

もらっている。また、展示を行う場所の問題もあり、本館はいろんな場所があるので臨機応変に展示できる場所があるが、他の館はそういった場所が少ない。カウンターの前や隅で行うこともあるが、それほど冊数は置けない。

利用者： そういった本の展示は市民の関心が高く、すぐに借りられてしまうので、表紙の画像だけでも展示して紹介してくれると良い。本の表紙の印刷はしても良いのか？

図書館： 本の表紙の使用は、出版社の許諾をとる必要があるが、少しの期間だけの為に許諾をとるのは準備のハードルが高くなる。しかし、市民の関心は高いので、設置すると本がよく利用されると思う。

新本館について

利用者： 新本館について、YouTube（ユーチューブ）の議会の中継を見た。環境の配慮というのが基本計画にあったが、「ZEB Ready（ゼブレディ）」までは考えてなかったということで追加予算になった。国からの補助金をもらうような形で、環境配慮するということを言っていた。補助金は一生懸命取ると言っていたのに、ZEB Ready ではないと補助金はもらえないのでは。

図書館： 基本計画の時点では施設計画として「建設の経済性だけでなくライフサイクルコストの低減に配慮した建築」を目指すことまでは決めていたが、具体的に目指すべき削減目標値の設定までには至っていなかった。これは建物の概要や敷地の使い方を見定められる段階まで進まないとなかなか具体的な削減目標値の設定は難しく、当然のことながら削減効果が高い設備は費用も高価になるため、安易な目標設定はできない。そのような状況の中で、50%削減の ZEB Ready であれば一定額の負担で実現できるのではないかと考え、補助金の充当も含めて検討を進めているところである。

利用者： しかし、理由としてはおかしいと思う。

図書館： 環境配慮をするということは最初から決めていたが、どの程度までの環境配慮かというのがなかなか決められない中で、基本計画に ZEB Ready を目指すことは盛り込めなかった。現状 ZEB Ready を実現している建築物は小規模な施設が多く、大規模な施設になればなるほど ZEB Ready の実現は難しいという実態もある。

利用者： 太陽光パネルについても、自然エネルギーを使おうということは基本計画で言っていたので、追加予算で行うことが違和感である。元から予算に入っているはずではないか。

図書館： 基本計画では自然エネルギーの導入について設計段階で検討を行いたいとしていた。どこまで環境配慮をするかで予算が大きく変わってしまう。それが 20%、30%の削減でも「環境配慮」と言ってしまうものの、環境配慮が求められる時代

的な背景や新しく建設する公共施設のあり方としてそれではいけないと考えて、50%削減の ZEB Ready と太陽光パネルの導入を目指している。

利用者： 補助金は取っていくと言っていたはず。環境配慮以外にはどのような補助金があるのか？

図書館： 例えば、トイレ等を工夫して、乳幼児を持つ親が安心して外出を楽しめる環境を整備すると赤ちゃんふらっと補助金というのがもらえたり、今回利用できるかわからないが、電気自動車を購入して充電設備を整備すると補助金がもらえたり等、数多くの補助金がある。導入を目指しているエスカレーターにも補助金がある。それぞれに審査があるので獲得できるかは不透明だが、できるだけ多くの補助金をとっていくという考え方に変更はない。

利用者： エスカレーターを設置するのは、コストがかかりすぎていると思うし、違和感がある。

図書館： エスカレーターが設置されている図書館は珍しくない。

利用者： また、新本館の設計では、ガラス張りの部分が多い。ガラスにするか普通の壁にするかで費用がどのくらい変わるかによっては、ガラス張りの部分はそんなにいないのでは。

図書館： 基本構想の時点で新本館が公園の隣に建つといわれていたときから、公園とのつながりや一体感を感じられるようにしたいと考えていた。また、基本計画の時点では新本館を公園の中に建てることが決まって、図書館内から公園への眺望を求めるとご意見を多数いただいていた。ガラス張りについては、それらの意見を反映した結果である。

利用者： すべての壁を普通の壁にしなくても良いが、部分的に普通の壁も入れていくと少し費用が下がるのであれば考えてほしい。

図書館： 費用については、壁にするかガラス張りにするかでほとんど変わらないと聞いている。ただしコンクリートの壁を増やすと重さが増すので、構造体としてより強くしなければならない。窓ガラスは、利用者の安全性を確保するために強化ガラスにしたい。

利用者： その辺は説明を聞いたが、やはり新本館のイメージ図を見るととてもガラスが多い。あまりにも外から見えすぎるのは、利用者としては嬉しくないとも思う。

図書館： 図書館の中から公園の緑がよく見えるのは魅力的だし、公園からも図書館の中が見えやすくなることで館内に入りやすい雰囲気づくりをしたいが、外から見られることに困惑する利用者が多いようなら運営する中で考えていきたい。現状は外から利用者が見られないようにするために、あえて壁を増やす必要性はないと考えている。

図書館： 日中は、外から図書館の中はそれほど見えないと思うが、夜だと外から図書館内が見えるということはあると思う。

図書館： 予算の精査はこれからも行っていく。建設工事費は来年度予算として要求して

いくが、できるだけ費用を落とさないといけないとは思っている。どのように費用を下げるかは非常に難しいところだが、エスカレーターは高いから要らないという考えか？

利用者： 機械を入れるから、電気代やメンテナンスのコストがかかると思うし、削減するならエスカレーターではないかと思う。

図書館： エスカレーターは新本館の中央部分に設置することを考えているが、ここは公園の中の園路でもあり、公園とまちをつなぐ部分なので、エスカレーターを設置することで図書館利用者だけでなく公園利用者も含めて回遊性を高められる。そして、エスカレーターは足の悪い人だけでなく、普通に歩ける人や若者でも利用する。

利用者： ヒアリングは行わないのか？

図書館： ヒアリングはしていない。7月20日号のたま広報では、エスカレーター付きの絵を出していたが、基本設計のまとめ段階でいったん棚上げにしていた。我々としてはエスカレーターの設置を好意的に受けとめる市民のほうが多いと捉えているので、あえてヒアリングはしていない。導入コストが予算の範囲内であれば設置したいと考えて設計を進めている。

図書館： 普通に歩ける人でも、エスカレーターがあった方がいいと言う人もいる。多摩センター駅前のマグレブ EASTにもエスカレーターが設置されたが、かなり使われている。新本館で設置するのも、あれくらいのサイズのエスカレーターである。

利用者： 何か良い方策がないかと思う。費用を少し抑えるように考えてほしい。

永山図書館からのお知らせ

図書館： 全館で行うが、今年も福袋を実施する。職員が本を選び、包装もおしゃれにするつもりなので楽しみしていただきたい。あとは、永山図書館の企画展示コーナーでは170冊程度の本を用意しており、趣向を凝らして展示を行っているので、ぜひご利用ください。